

公益財団法人

宮城県国際化協会

MIYAGI INTERNATIONAL ASSOCIATION

倶楽部

MIA

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

ブラジル野菜ビキーニヨを 名取から広めたい



ときた
梶田 ミリアン 由美子 さん
ブラジル連邦共和国 スザノ市福博村出身
国際交流協会ともだちin名取
多文化共生支援部 副会長



ビキーニヨのピクルス



梶田さん一家

——来日のきっかけを教えてください。

ブラジル・サンパウロ州スザノ市の日系移民が住む福博村(ふくはくむら)で日系3世として日本語環境で育ちました。中学、高校と学年が上がるにつれ、ポルトガル語でもしっかり勉強しなければならず大変でした。大学の建築学科で学んでいるとき、日本留学から戻った幼なじみから私も懂っていた日本での生活について聞いたことがきっかけで母方の祖母の出身地にある東北大学大学院で県費留学生として学ぶことになりました。

——国際交流協会ともだちin名取と関わったきっかけや現在の活動などをお話してください。

卒業後、仙台市内の造園会社で働いているときに出会った日本人男性と結婚しました。知り合いのブラジル人が日本語の勉強をしたいというので名取市役所に相談したら、「ともだちin名取」という団体で学べるのがわかり、私も一緒に参加し、日本語能力試験のN1合格を目指すことになりました。その後子育てなどで多忙になり、しばらく足が遠のいていましたが、2011年に名取市長が姉妹都市のブラジル・グアララス市へ訪問することになり、ともだちin名取を通じて通訳の依頼があったことがきっかけで、つながりが復活しました。その年の3月11日に発生した東日本大震災で訪問は延期になりましたが、今度は被災住民が暮らす仮設住宅でおしゃべりをするボランティアの誘いがあり、それからずっと関わっています。

現在は、多文化共生支援部に所属して広報などに携わっています。今年3月11日には石川県で開催された「多文化が共生する県民フェスタ」で被災体験をお話する機会をいただきました。

——ブラジル原産のビキーニヨという野菜を栽培しているそうですね。

仮設住宅でおしゃべりボランティアをしていたとき、ブラジル料理と一緒に作ってみたいかと提案したら、喜んでくれて、フェイスジョアード(豆のシチュー)やポンデケーキ(チーズ味のパン)などを作りました。それからブラジルへの興味を持つ人が増えて、日系ブラジル人が多く住んでいる群馬県を訪問したりもしました。群馬県ではキャッサバ*が栽培されており宮城でも試してみましたが、農家さ

んに「東北は寒くて難しい」と言われた通りの結果になりました。

(*キャッサバ:タピオカの原料として知られているが、ポンデケーキなどのブラジル料理にも広く使われている)

東北でもブラジル野菜を育てたいとその後も試行錯誤を続けた結果、ビキーニヨに辿り着きました。ビキーニヨは、2、3センチの赤くコロツとした形で辛みの少ないとがらしです。ブラジルではピクルスとして食べることが多いです。日本で種を購入できることがわかり、最初は鉢植えで育ててみました。鑑賞用にもなるくらいきれいな赤い実が鈴なりにできて、「これは色んな料理に使えるぞ!沿岸部の災害危険区域でも栽培できるのでは?」と思いました。

それから周囲の人たちに「畑で作りたい」と話してみたところ、「どうだろう、難しいと思うよ」と言われました。けれども、ブラジルで花卉栽培を成功させた祖父譲りの「開拓者の血」が騒ぎ、俄然やる気が出ました。そして私の熱意を理解してくれた農家さんが畑を提供してくださり、地植え栽培ができるようになりました。

始めてから今年が5年目、毎年変化があります。去年は風で作物が傾き、慌てて支柱を添えましたが、今年は苗を地植えするときに一緒に支柱も立てました。収穫時の負担を減らすため、植え付け箇所に盛り土をしました。また地元の尚絅学院大学で栄養学を学ぶ学生さんたちが昨年「チームびき〜」を結成して関わってくれています。今年の夏、酷暑のなか朝6時の収穫に来てくれた時は嬉しかったですよ。来年は近くにある別の農家さんや岩沼市の農家さんからも畑も提供していただけることになりました。今後の課題は、水やりです。保水タンクを置きたいのですが、畑が危険区域にあり設置物などに制限があるのが悩みどころです。

——これからどんなことをしたいですか。

ビキーニヨを多くの人に知ってもらいたいです。ブラジルと同じではなく日本人向けにアレンジしたピクルスや、シーズニングソルトなどを商品化して、地域の特産品にできたらと考えています。さらに冷凍保存したり、食品乾燥機を買って水分を除いたりレシピ作りにも励んでいます。ブラジル野菜が名取や東北を元気にすることができたら、嬉しい限りです。

MIA日本語講座だより



10月3日、今年度第2期のMIA日本語講座が開講しました。MIA日本語講座には、週に4日の初級クラスと週に2日の中級クラス、そして週に1日の夜間初級クラスがあります。今回は中級クラスに在籍するブラジル出身のジョアンさんとタイ出身のチャリアオさんにMIA日本語講座での学習について伺いました。ジョアンさんは、「日本に来て4年になります。以前通っていた日本語教室では文法の学習が中心でしたが、MIA日本語講座は、毎回テーマに沿って話す機会が多いのが良いです。先生もやさしいです。今後は、日本で仕事をし、長く暮らすために、もっと日本語を勉強したいです。」と話してくれました。タイから日本に来て10年経つチャリアオさんは、「はじめは日本語講座に通いたくなかったのですが、夫の勧めでMIAに通いはじめました。今は教室が楽しいです。友だちも先生もやさしい。日本語もできるようになりました。予習、復習も必ずしています。もっと上手に話せるように、そして読めるようになりたいです。」とのことでした。お二人のお話から、楽しんで受講していること、そしてこれからもっと日本語の勉強をしたいという気持ちが伝わってきました。どうぞこれからも勉強をがんばってくださいね。



ジョアンさん(左)とチャリアオさん(右)

参加者募集 MIA日本語サポータービギナー研修会(オンライン)

この研修会は、日本語学習を希望する県内在住の外国人にマンツーマンで学習支援を行う「MIA日本語サポーター」の登録者、もしくはこれから登録を希望する方を対象に、外国人の日本語学習サポートに関する基礎的な知識等を提供し、活動時に役立てていただくことを目的として開催するものです。ご関心のある方は、ぜひご参加ください。

■日 時 2024年2月8日(木) 13:00~15:00

■場 所 オンライン (Zoom ミーティング)

■内 容 1 外国語としての日本語 2 日本語学習教材について 3 やさしい日本語

■参加費 無料 ■定 員 20名 (要申込み)

■申し込みは右記の Google フォームから <https://mia-miyagi.jp/2401beginner> または



シリーズ 多文化介護の現場から

特別養護老人ホーム ウィング

外国人留学生指導員 藤村 由香さん

担い手不足を背景に日本政府は介護現場にも外国人の受け入れを決め、宮城県内でも介護の仕事をする外国人が少しずつ増えています。本シリーズは、大郷町の介護施設の外国人留学生指導員、藤村さんに外国人とともに働く介護現場についてご紹介いただきます。

第1回 外国人が介護士として働くための資格

日本に暮らす外国人が何かしらの在留資格を持っていることはご存じでしょうか。在留資格とは日本で生活するために必要な許可証のようなものです。今回は、たくさんある在留資格のうち、介護施設で外国人が働くための在留資格と制度についてご紹介いたします。

現在、介護職に就くことができる在留資格は、4つあります。日本と相手国の経済活動の連携強化を目指す「EPA介護福祉士候補者(特定活動)」、日本で学んだ技能や知識を母国で生かしてもらうための「技能実習」、就労を目的とする「特定技能」と「介護」、それぞれの制度には様々な特性があります。対象国、在留期間や求められる日本語能力も異なります。

当施設では、「介護」の在留資格を取得した外国人介護士が12名います。留学生として来日、介護福祉士養成校を卒業後、介護福祉士として働いています。令和9年3月までに養成校を卒業した人は、5年間継続して介護職に従事することで、国家試験の合否に関わらず制限なく働くことができる経過措置の制度もあります。

今後も外国人人材に関する制度見直しが予想されますが、ともに働き学ぶ仲間として誰もが暮らしやすい社会になることを願います。



同期のベトナム人介護福祉士

みやぎのふるさとふれあい事業のご報告

この事業は、留学生等県内在住の外国人に地域のお祭りやイベントに参加してもらい、伝統文化の体験やホームビジット/ステイなど地域住民との交流を通じて、県民と参加外国人の相互理解を深めてもらうことが目的です。

今年は9月30日に美里町で7か国から来た留学生8名が、そして9月30日と10月1日には石巻市で6か国からきた8名が、各地域の個性を活かしたイベントに参加しました。参加者からは、「稲刈りや餅つき体験、それから精米所見学など、普通の観光客が体験できないことができた」、「小さな町でしたが、心温まる体験となりました。また近いうちに訪れたいです」、「ホストファミリーには自分の親のように面倒をみていただいた」、「震災遺構の学校見学では災害の恐ろしさがわかりました」などの感想が寄せられました。



美里町 稲刈り体験



石巻市 茶道体験



みやぎの国際活動団体

登米市国際交流協会 事務局長 佐々木信一さん

登米市国際交流協会(TIFA)は、市内在住外国出身者向けに、通年毎週金曜日夜7時～9時に日本語教室を開催しています。現在はベトナム、フィリピンやマレーシア出身者など7名ほどが日常生活や職場で役立てるため、さらには日本語能力試験合格を目指して学んでいます。

また外国人相談窓口をこの日本語教室の開催時間に併せて設け、行政書類の翻訳や病院での通訳の手配をしています。最近是在住外国人の高齢化に伴い、家族の葬儀や遺産相続手続き支援などが増えてきました。

12月17日(日)には、登米市国際まつりを迫公民館で行います。今年は三味線の演奏や古武道の居合(いあい)を披露します。さらにイタリア、インド、フィリピン、中国、韓国等々、世界の料理を振る舞う予定です。

他にも市民向けの中国語教室や英語教室、米国、オーストラリア、カナダの国際姉妹都市との交流事業などもあります。これからも地域の皆さんに身近な国際交流の機会を提供したいと考えています。



国際まつり

サポーターの声

佐々木敦子さん (MIA日本語サポーター)



ズオンさん(左)と佐々木さん(右)

ベトナム人技能実習生のズオンさんに、8月半ばから週2回、1時間ずつオンラインでサポートを始めました。12月の日本語能力試験N2合格に向けて、文法のテキストを使って勉強しています。テキストのみだと例文が足りないと感じたので、Power Pointで教材を作成し、1つの単語に6つくらいの例文を紹介するようにしています。ズオンさんはとても勉強熱心な方で、ご自分でテキストをすべて終わらせていますし、「尊敬と尊重はどう違いますか」「『何う』は誰と話すときに使いますか」などと質問もたくさんしてくれています。1回の活動で4ページ分を勉強していて、もっと増やしたほうがよいかとズオンさんに尋ねたところ、質問する時間もほしいのでこのペースでよいとのことでした。ズオンさんが納得できる支援を工夫しないといけないと気持ちを新たにしました。始めたばかりのころは、教材準備を続けられるのかと私自身に不安がありましたが、ズオンさんの頑張りにも励まされながら準備が面白いと感じるようになってきました。

普段はお互いに仕事をしていることもあり、オンラインで活動していますが、先日、ベトナム料理を食べに誘ってくれました。サポートは私にとって嬉しい機会になりました。ズオンさんの応援を続けようと思っています。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙 倶楽部MIAの定期送付(年6回)
- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引 宮交観光サービス(株)
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.130

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通南宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <https://mia-miyagi.jp>

